

繪本
豐臣勲功記

四編

三





繪木豊臣勲功記四編三之卷

目録

山崎長門守謀成信長降軍

属義景退去

秀吉救黒部大拉浅井勢

属公旁外慮

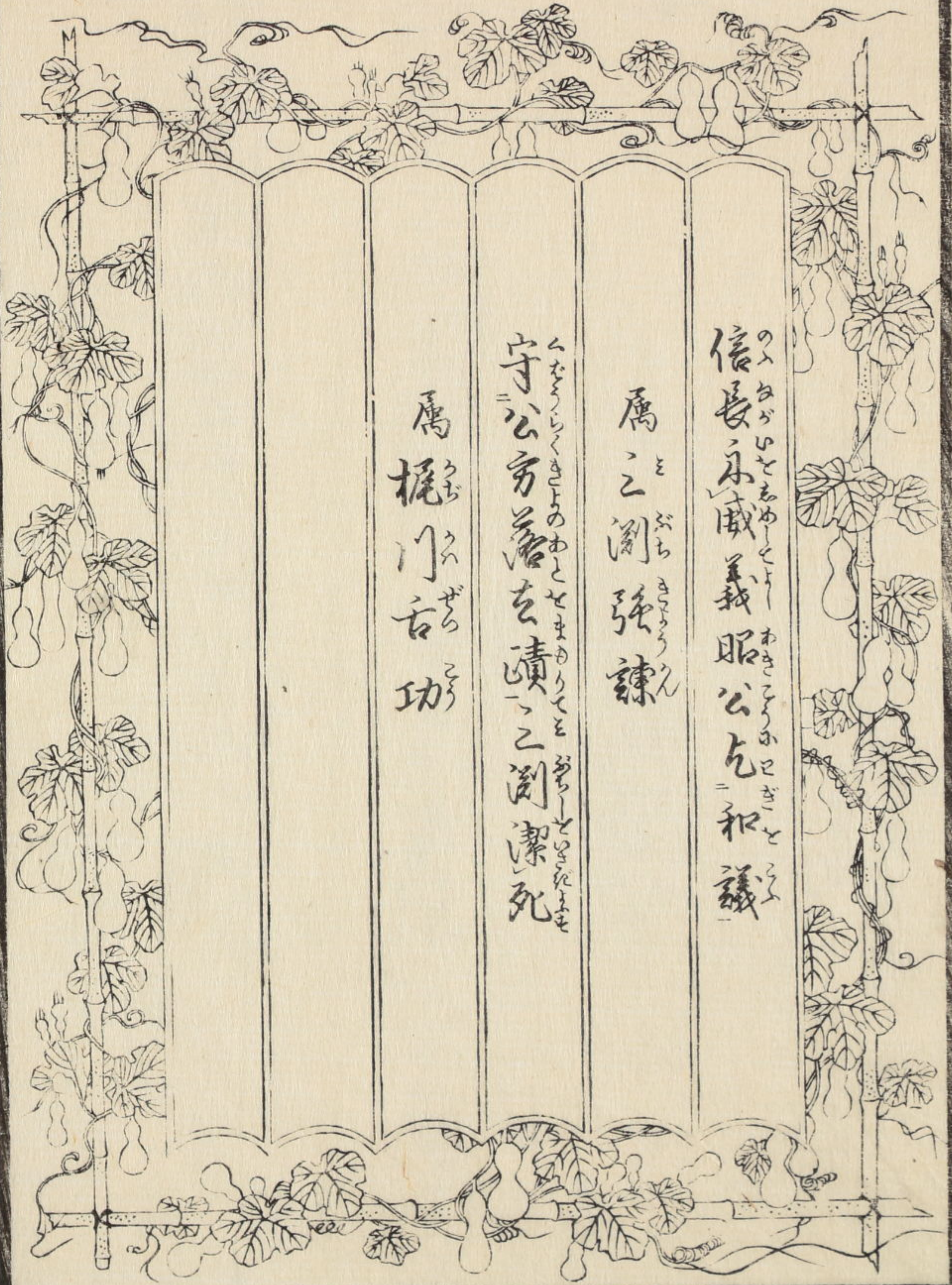
繪木豊臣勲功記

信長よ威義昭公乞和議

厲之剛強練

守公方落を漬之剛潔死

厲梶門古功



繪本豊臣勲功記四編卷之二

江戸 八功舎 徳水刑補

山崎長門守成謀信長帰軍 厲義系還去



二國中にて良辰を以て小あらざるも。虎を以て氣となし。兎を以て朱となさる。
まばらに用全く備をなせり。然る小川の加勢を。物倉たすつ替義系に望
日直地小出軍せんと宣ふる頃より至准十備。明を待て立たるが先達る若
波九郎を遣はせ助くる池田集人謀るに。お波小通より来る事のものにて速時
小謀戮せらる。是れ小よりて。自以合戦運小延引志は。終も運心の者やあらん。
とた右の軍も出さざり。四五日が程に。其事を以て長政又丈小思ふといふ。
虎御茶山の謀請と始る事あり。奉と振りて。うち過る小で。織田
方少人杖とまをく。一城舎。成然る。信長則地小本陣と



虎御前山の
城成て小谷の
城と沈視す

小谷



うへに村亦村計意を奉受し。暗夜小終きて虎前山の麓の陣小屋
うへにむらもむらもりのい ちやうたぬ くれや また たらどぜんやまのふもと おんごや
 の若もろく潜び投四五箇所小火を薙り、小ぞ中勢風浪のそく
おんく かくく ちやうたぬ かくく かくく かくく かくく かくく かくく かくく
 ちびこり、燧々爆々と爛熳をこき小よりて織田家の門々前發動を
ちびこり ちびこり ちびこり ちびこり ちびこり ちびこり ちびこり ちびこり ちびこり
 々々木中指揮して諸陣を鎮め、必死敵の軍をらん、敵こそ氣絶
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 たり。然れども當ることあり、要情少くなく、隊伍固らばよ
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 と敵重小と相待り、是も敵一人も出ず、左右をうち火のきも
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 鎮り、夜に朝くと、羽一々信長諸士を唱集め、いそぎと評定あり、藤
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 吉野進んで、云城速脱小成能く、こまに對陣もまじき益あり、所詮この
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 らび面敵と亡と陣もあらうが、これ再び衆を厭せり、小及をじまぶ、横
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 山を所退をありて、推察す、小義系も、降参の不便十分あり、
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 備戦はんと思ふ、るが、衆の如く火炎の強き、このよに、時算分ぬき、

是能一戦を初む、小夜殿、終もせざる事、能く軍を好まぬり、終り、壁前退る
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 あり、是も事ゆえ、と、稟り、小に信長遠義小同、玉ひ小屋の焼中、小に柵鹿角
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 末を結構なきを、虎前山の城中、小に外小守護、將士も、と、別秀吉
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 小令せらば、官部八海へ後援を、約、猶又磯野丹波を、と、海郡、海の西より
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 唱招き、汝も共小遠地小止り、木下小力を、勸せよ、と、最悪小令、採られ、雲雀山の
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 城を、と、させ、廿一日の白晝、小虎前山を、南にありて、横山の城へ、南入あり、
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 義系始終を、所よりも、山邊が、計らひ、と、感賞せられ、終も、思ひの、つぎを、遠に、
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 然れ、帰陣の、準備せんと、甲乙と、みく、強き、と、合たり、信長の、敵の、空を、と、
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 んと、一兩日、逗留せし、と、と、向ふ、と、むも、見へ、と、ざり、と、遠う、の、別事、あり、まじ、
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 と、漸父、子とも、小横山を、漸に、ありて、遠小、波草城へ、南帰陣あり、これ
ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ ちやうたぬ
 小より、と、義系も、心せ、寧ん、と、諸軍を、まじ、め、十月三日、北早、又、小大、嶽

豊臣評四編巻之三

三

の陣を退きしに越前當てど帰馬せらる。且津井への助力として八幡
系鏡小五子と副らま。あまを江列小と止らる。

秀吉救宮部大拉津井勢属公方外慮

一才都て腹ありとも秀吉が如く呼吸なりがらうん今虎洲前山の構
東西南小倉敵小と是を助る。後援の益も。昨夕織田家小降り
者小て心全く信ありがし。并せ恐臆の色なくして。恭々然と軍城の鬼神
天物の敵来るとも猶兇戯とも思えざるらめ。却る堅牢の城をりて長政
一隊の軍勢とも千變万化して攻まはると争うことを落すの理あらん時
小十一月十六日。長政まらら。二千余騎小倉倉の加勢系鏡小五子と令せ
て虎洲前山へ。二をこ小攻薙きとも忽地惣軍敗走して遠く小倉へ
退投り長政亦く評定形。遠遭の虎洲前山の後援する宮部八

島を攻落さんと清井の倉に惣軍勢二万余騎小て推進する宮部
の城に若位房敦潤自焼五万がまると小織田家の加勢と百余騎令
せく八百餘騎まるといとも遠くは小はまると時ハ軍の角とて大牛の角
争ひあとも亦まら。然ども種烈の善任房益と励まし防ぎるもた
右々く落城なりがしと木下村と所よりも助力をへと準備しるを
茶波九郎高富田増井依諫めて謂や。進軍江北の大軍を小小
軍せりて助力せんことと氣願ひたさる。第一合戦あり時ハ高
城とも危あらるべし是非救まんこの事ありハ遠傳君依小令と至
粉骨碎身するまらんと誠を演て諫めたる小秀吉所て感嘆あり。未織田
家の恩賞とも奉らるる。若くは清洲異見未あり。然ハあまも遠月
こ小救りて相傳志とこ小居上軍せざるも本意あり。若くは若志も亦

ぐんももまぶく小隊小任せりあて園指く小なり玉(一)と計を謀合せ
 雲霧山小止りし。磯野丹波も小も計畧を教へ合書を遠くを推進た
 まへと急ぎ指揮を傳へせり。木下櫓のま中より八百余人の選を
 備りし。一隊を推し出せし。富田彌中條又富
 田原勝多備七百余騎少てた小隊位増井を内毛吉猪之助流川左
 右邊の大橋七重備七百余騎少て右小隊位虎新市山小の木下小中
 村深助。ま山藤井を止めし。惣勢二千二百餘騎烈風の像く殺奔
 て。淺井新倉が二萬余騎の儀に方より合戦も。徹夜小形と
 突撃も。魁のいも勢のぬ加藤虎之助流川井上。木村を助て
 四角八面小奮突し。これに續ひて福将所相尾常氣はの若武者
 軍背面顔足の嫌ひさく左右小難仕破倒し。前後小隊ちりし。

惣軍の群衆を絶がやく。二万余人のま中をわづらう像く。致勝も。淺井が
 後陣。特地小崩れ。右横た横小糸起長政列し。下群をとい。完
 難く一個所がこそ。終をこして隊伍締らむ。遠响秀吉東配推指左右
 招けり。惣勢と左の旁より若波富田。梶原中条の七百余人。横渡とあり
 て。淺井勢を塵小せんと突撃。右の旁より増井。毛谷。流川。大橋。七
 百餘騎。喊を合せて。横突を之方より烈しく突起。小ぞいと崩れ。淺井
 の後陣。左右の横渡。小掘起らむ。四度。踏小あり。是陣へ。なごまらむ。長政
 系鏡。妻時。城責せり。棄て。木下。勢と戦ふ。と定陣。後陣。を將せんと。然
 ども大勢の私を。事由。自己。無士。小妨らむ。隊伍。を惣。を事。あ。こ。城。中
 山。を。見。より。も。木。下。が。後。援。の。勢。小。勢。力。を。合。せ。と。若。原。房。自。勢。五。百。人
 小。て。殿。へ。勢。を。起。し。淺。井。勢。を。如。滿。若。烟。と。掃。り。し。遠。响。朝。倉。式。部。也



秀吉
 微力の
 勢とりつて
 浅井朝倉の
 大軍と
 破く
 宮部と
 救ふ



一つの計謀を案し出。官部勢に戦ひ口を浅井長政小まうせ置東の方馳
 援て遠慮小城を攻取んと自恃小下群と進む所と東北の流布本東南との山際
 より磯野丹波守員心三百余騎小く強き。船倉勢のうしろより。旗炮も起
 標多し小小勢をさても新隊の磯野名小員勇將ありをさへ自守正魁小言
 を進め瞬もせを強通を果流が隊の二子余騎裏崩と散乱を這
 圖を振さど荒擣を。蹄勢尖く強破り。浅井が隊伍へ横さぬ小爆火
 の如く敵て暮る木下より力を得て。四方一夜小激叫々。火水小なま
 と攻着るまば二系と所一。大軍もさど敵もさ小力あるまば。浅井船倉
 の軍もさも惣崩まるとなりたる小ぞ大將長政系流矢火小をさまとも
 方衝る。思ひひが。敵強と小谷の方へ馳まると木下。磯野官部のさ
 士一隊小りて追敵。敵と敵軍を救を限後無揚て又く小谷の

城(退陣)一。敵提一。敵もせ。後阜(贈)軍に次子と言付。らまげ
 信長大不感悦せらま。又く復賞せらま。前波高田の軍は後ら秀
 吉が智仁小降伏。真小忠信を列し。遠遣官部の後援と期
 をう。後利を得。人事の善小も思えさる。由(玉陣)のさも異見をせし。う
 遠後軍小増を感至。い。う。ま。六。敵に大軍を移すを易く。敵前をさ
 易と現切。さ。小。や。最。多。士。勇。糧。小。か。え。と。と。り。ま。も。二。系。は。敵。兵。一。ま
 も。ま。の。ま。ま。ど。見。苦。し。ま。追。敗。北。せ。し。こと。敵。の。弱。し。と。い。ふ。も。あ。ら。は。し。後。れ。は。う
 不思議の所。奉止と。訊ぬ小秀吉。完爾と笑ひ宣ふ。如く。昔の如
 勇と。弟。さ。大。將。の。ま。ま。も。隊。の。多。士。系。弱。め。ら。ど。然。し。も。ま。も。備。前。さ
 先。自。り。の。敵。軍。小。憤。怒。満。狗。志。つ。る。ま。ま。一。備。前。糧。の。ま。ま。も。一。て。慮。り。更
 小。り。又。系。境。に。加。勢。を。さ。小。引。又。て。戦。を。さ。ま。り。て。今。日。官。部。を。攻。る。小。二

豊臣評四編卷之三

七

勇の大軍を二隊に分ち。憤怒の餘り小宮部の城を一時小坂屋一宮
 城の後援を断んとせしむ。備思意を廻らし戦ふる。二方の益を
 小坂屋一隊の宮部の城を責一隊の當城の雁とをせ一隊の遊軍也
 て正中隊備一軍成壯んふらむこと。義小坂屋の事。長政憤
 怒の勇小坂屋。思慮を以て護り。後進む心ありともを顧ること
 あり。其圖を計りて攻る。是は約しを統く敗走せし。然るもその
 圖小坂屋の事。念々の命令を擲奮激突戦し玉ふ。と功を能
 く。謙退し玉ふ。四人を擲く感佩あり。忠義小坂屋を傾けたり。諸長政
 と大軍の事。儀小坂屋宮部を之に攻る。と能たされ。圖を
 合せとも能く。約を控へて止む。系境も這般小坂屋。一軍帰
 國して。士氣を補ひ。再為義系諸とも小坂屋さんと相を。義系

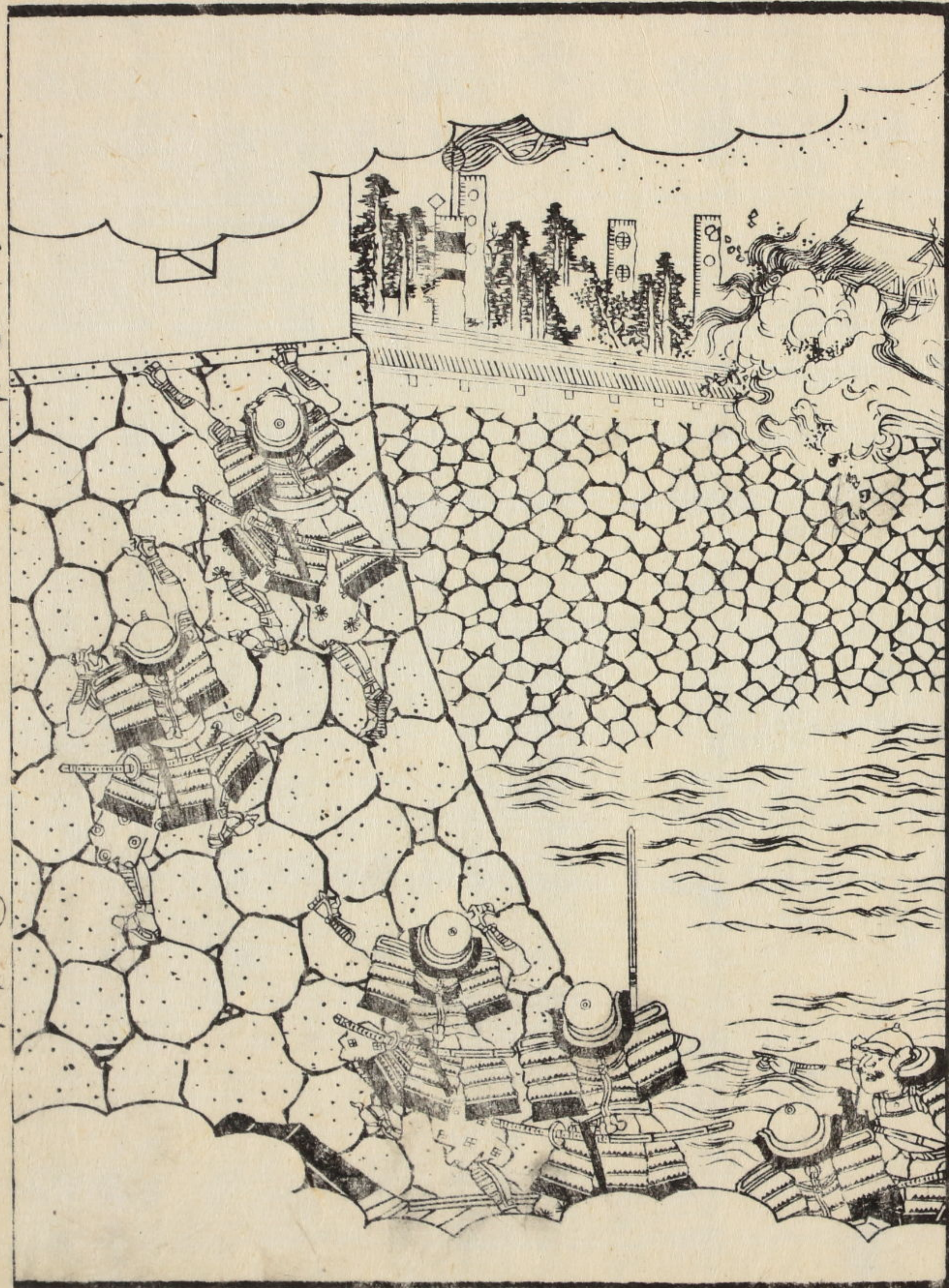
の勇士中嶋惣次。堀江を助。並小坂屋泉寺の衆。徒西林房。倂せ。丁
 野山の城。置其身の越前。一帰國のし。是より。長政も再び戦を
 好ま。これ。虎洲。山より。段て出。せ。あ。合。て。目。と。送。り。ぬ。それ。摺
 這小坂屋。事。有。る。大。軍。出。來。せ。り。京。都。將。軍。義。昭。公。の。有。る。倭。船。の
 せ。し。ら。小。坂。屋。の。野。心。を。思。ひ。立。信。長。退。治。の。所。書。を。あ。り。て。甲。別。の
 武田近別の儀并越前。朝倉越後の上杉謙吉の毛利遠解。付
 諸將を。こ。ら。ひ。玉。ふ。中。小。坂。屋。武。田。信。玄。の。智。勇。兼。備。の。大。將。を。こ。ら。ひ。清。井
 紹。倉。と。謀。り。合。せ。信。長。を。使。し。毀。んと。遠。別。を。出。馬。し。これ。と。深。井。也。小
 坂。屋。の。上。洛。を。こ。ら。ひ。ぐ。く。元。龜。四。本。と。り。移。る。然。る。小。坂。屋。信。長。の
 孫。吉。部。が。教。小。坂。屋。村。井。民。部。等。田。不。之。助。を。使。者。と。し。清。遠。京。一。と。り
 こと。も。更。小。坂。屋。得。心。は。し。ま。ま。ず。石。山。堅。田。へ。城。を。築。り。諸。將。を。出。張。り

豊後評四編卷之三

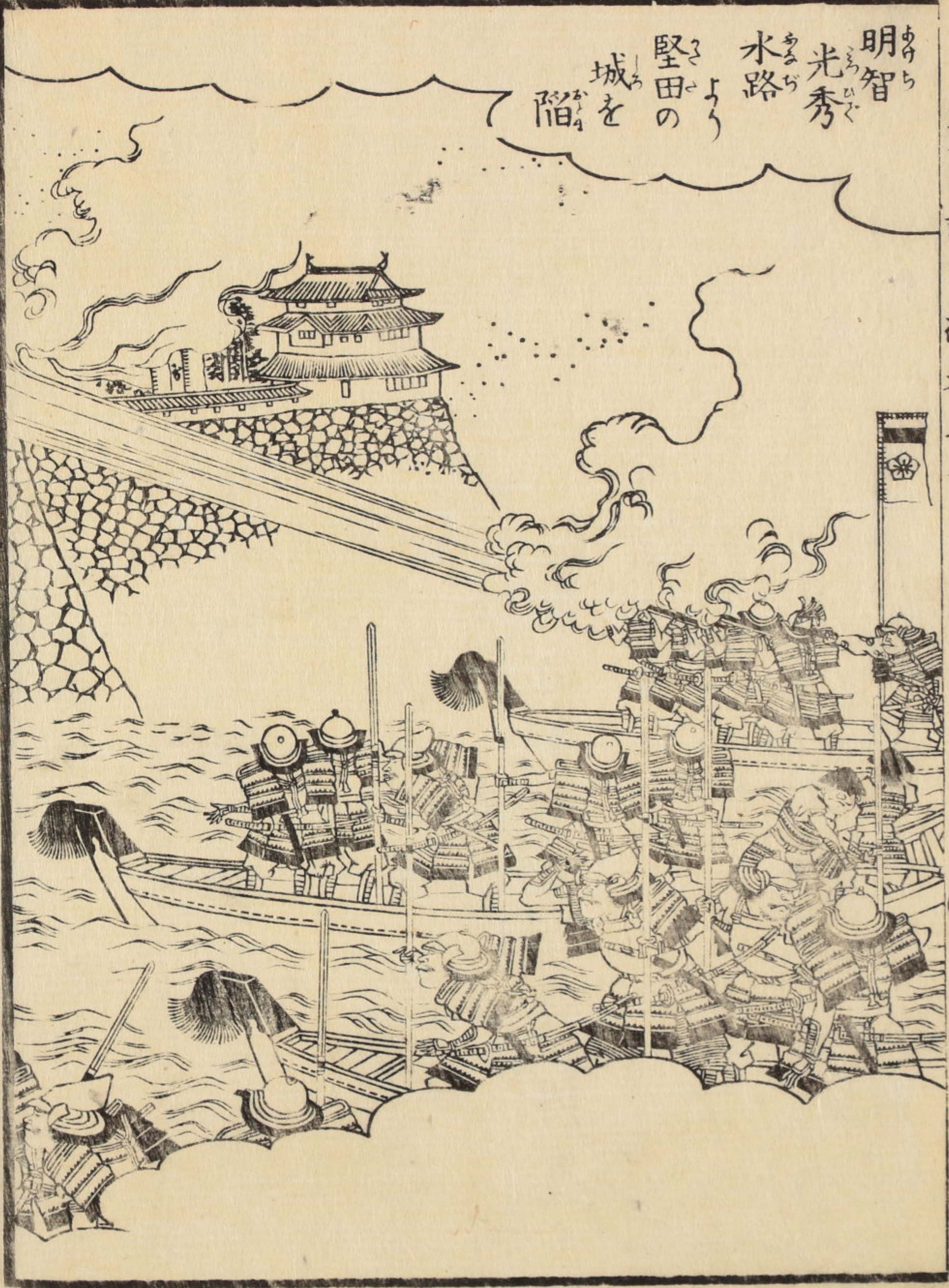
八六

さしめたる由へ信長も是能小及たを。柴田丹羽明智輝信の四將を以て
 石山の城を攻圍む。遠城のまご修理調のを要害味あるのまごす。
 軍城のま八百余人を是をちる大將の之井寺の元降院（元降院の他人山
 後守あり）廣貝新右衛門（山中の他人）織田家の軍威小恐怖と戦ふる小孫
 動しるる紫田明智（あはち）彼其氣を察して急小攻急なる小より天將之
 井の元降院（あはち）從山園（あはち）濃守小属て降参る。城を圍きて退去
 せり。四將城中入る士卒を休ませ軍の評後なる小明智光秀
 重なる堅田の城の要害をく（あはち）共士敢多張ちらん悔ふべき歎かあらむと
 當城へ雁守を並せしめて水陸二隊小分を推進することを理多る。まご當城
 の守りも堅うらむまご紫田殿所残りあらむ俺們粉骨碎身な堅田

と次提しらると。重なる小柴田も是同意し。二千余騎おて石山小止る。
 光秀へ丹羽蜂屋小計議を謂合六千余騎小陸より段せ明智の千騎
 と引率し。湖上を船小推進し。陸より馳る丹羽蜂屋へ。二月廿五日
 の正午。後炮を段り攻襲し進軍へまごと隊伍を紊し。款を侮り体小りて
 み。かめれ叫んで攻起る。城中初と見ゆるりも。まごや段出進軍は。軍
 退散さんと伊藤九郎左衛門濃守を内。一千余騎小突出し。進軍は中
 へ近接し。右斬り擲小戦へ。進軍一滄軍也も支へ。右性た性小徳走
 を。終もこそあらめと伊藤濃守を。勝小乘て退蒐る。丹羽長秀踏止
 り。まご小遮戦ひし。ど叶えし。おまごを。城をゆる。驕る。雄琴を。まご
 退来り。時分は。し。船中。大將。明智。十萬。光秀。湖水。と。湖。と。城。東。より。
 後炮。うち。蒐。千。余。人。不。意。小。推。進。し。る。城。を。慌。忙。さ。る。隊。伍。中。より。



明智光秀 水路 堅田の城を陥



小防が戦ふ先秀烈しく之を進め息をもつせめて責起ると明智が平
 次正先小進を一番小塚と繋ぎ城中小逃り込先秀程も声々を勵まし
 中々彌平次と殿を斬つてけくと呼ぶまで。次小先忠二番一系と名を樹
 猿は像く小塚と越り城をこま小膽を棄てて途を失うてを強ぐ
 雷我を庫助烈火の如く乗取敵を防ぐんと公士を勵まし狂情を奮くも
 光秀謀小取系至妙修練の決戦にて撰と殿ふりて流死され公庫を隠て
 切て放てりあやまことして右は徳第血烟くして殿抜りいそす時もこら
 るべき馬よりさうと落しりうが我の先黨絶たて主人と肩小引くも退幸の
 門より逃出。幸く殺地と遁出何地や當りう落失り大將部の如くられ
 残る一個こらあやま我方らと逃出るまで城の難くも取扱たり。然るに
 勢波を余り長退せし由小若や過直みんと心づきて退帰をせし時を結を

と丹羽輝屋六千余騎が一時小守返し。卓犖急小攻若くは六初小も似せ
 城をこも織田の猛々小接せらる。天目地首くと山もさる女さるを
 些も撓まて城門際まで追逼する。時小退隊の城門を綱と推開き大
 勢一時小突寄せし。伊勢波を自軍あらんと安途とする際もあつた
 こそ用槍と論せど次起突を過風の像く接射る小や久勢の師を
 るに思ふ計を逃る途方も難む右小走ると湖水小満りた小走
 る樹石小歩も遠々京都の路を貫く。伊勢波を結々軍逃走する
 こそ果敢なき。遠响明智丹羽輝屋の隊へ殿捕首員三百余級を
 將堅固は城小入る。雲時休むる石山堂田落城せし外小敵
 公一騎もなく。江別平均するより直々京都へ馳よる小も秘の料理小
 々々さるまで明智と坂小留め並柴田丹羽輝屋の三將三月二日改草

小澤宗。軍の始末を具小新へ辱く褒賞を蒙りし

信長も亦威義昭公と和後属之剛強練

大樹は榮枯原より教ありし榮るるの時至まひ芥子と足小用ひこれ

とも漸く花曇りまが如し。方後足利の榮花も茲小断せんとき時

う明後回しや義昭公いづら威之と好ませまらば實小嶋本が角小

て織元の牛小款をさかか。遠小織田弾正忠信長へ直小新出馬中

鼓もさども甲別は太守武田信玄兵濃へ初入の法法ふより上洛は義を

延引させしが果して三月十五日。四百余人の勢とりて東兵濃岩村小

信長も亦信玄と好むと結んで信長も亦信長へ吾願國へ入まじり料理ありし信長

もつら親和と破て殺入るの事り長小辟易とさき一戦小織田の武勇を

看威ししを陣向あり。徳と武田の本をりて二百余人。武田へ

あし岩村城(叢向あり。是信玄と信長と初めの對陣あり。亦も遠岩村

城の信長の姉丈ある。遠山修理亮頼系居城し。さき武勇の切居

る。秋山伯耆守晴近信玄の内意を奉て遠岩村へ乱入し。防

戦のらも小城を頼系病死し。皆内御前とのり者と申し。和信を

きて城を愛取頼系の家と自己が事となし。新居丸。信長中八

とて陣をのらる。押領し。三年也。弟信長上秀の軍事小隙を

く兼置り。然る小遠道織田武田陣を對する際もあらを東三河小

事出兼り。岩村小徴。多と残して武田城へ退陣し。信長も又

京都を思ふて。東兵濃一掃陣まじく。直に京都へ叢向を。と

あまらの準備速あり。然れども公方家共石山堅田藩城せし。新意

もさかへ。只頼軍の準備なき。之圖大和。長岡。大浦。是

豊臣評四編卷之三

十三

と嘆き。頗る小練に奉まじり。一向是と用ひらるるを。孫孝熟く思ふ。
 とも小令小も信長と洛せ。公方家亦負玉をんこと。境小うけりんるが如し。
 信長強氣に大將の軍に。公方の漸身まを。荒し。去るを信長の將佐と
 あり。是して公方の所命を。救ひ急らんと覚悟なり。信長と洛せ。うら小。
 佐之間小属を降参。と只管束し入らる。備ま。栲別。荒木の城を荒木
 信濃守村重。長岡と同意小し。信濃小属を降参。し別く願ふ。荒木
 中への栲別十二郡。と小属小切らせ玉を。うら小命を。兵と。憐む。は。言。は。り。
 とも小信長も。大徳の所望。との思ひ。ながら。動も。ま。栲別。小。の。好。の。余。の。
 釋起し。と。稔。あ。ら。ざる。國。ある。由。荒木が。願ひ。小。任。ま。す。と。遠。義。者。荒。木
 らせら。斯。を。諸。士。條。降。参。し。ま。ら。る。と。洛。し。と。諸。人。の。困。窮。幸。若。と。救。ふ。下
 こと。同。二。月。廿。五。日。京。都。七。當。て。衆。向。あ。り。廿。七。日。小。逢。坂。小。着。せ。ら。る。江。明。逢。坂。の。長。也。

せらひやぶのこのみ。あらまき。あまの。つ。ま。を。漸。近。ひ。小。突。し。と。信。長。ま。づ。孫。孝。を
 岡。谷。部。大。捕。荒。木。信。濃。と。是。を。中。途。に。小。突。し。と。信。長。ま。づ。孫。孝。を
 漸。近。ま。づ。公。方。家。漸。野。心。の。空。を。と。同。玉。小。孫。孝。善。の。詞。の。う。ら。小。公。方
 家。と。う。を。ひ。突。し。と。信。長。ま。づ。孫。孝。を。中。途。に。小。突。し。と。信。長。ま。づ。孫。孝。を
 孫。孝。を。一。玉。ひ。宣。ふ。や。孫。孝。心。安。ら。る。と。悪。く。ハ。計。ら。ひ。ま。ら。せ。し。と。漸
 善。ま。づ。大。徳。部。大。捕。荒。木。を。退。出。せ。次。小。荒。木。信。濃。を。召。小。突。し。と。同。様
 せり。信。長。の。こ。う。思。へ。ん。ち。力。推。搦。く。走。流。と。抜。傍。あ。る。こ。の。方。の。饒。兵。を
 こ。の。間。刀。は。し。ん。小。貫。を。荒。木。が。同。に。突。出。し。い。が。や。村。重。が。發。意。を
 會。せ。と。宣。ひ。と。ま。令。へ。ん。新。の。度。奥。小。も。量。の。有。と。堂。小。汗。搦。り。と。控
 る。村。重。堂。も。心。懸。せ。と。と。言。へ。と。あ。ま。後。共。れ。と。堂。小。突
 ひ。と。ま。令。へ。ん。頂。戴。は。ら。ん。と。大。口。喝。と。中。間。に。刀。の。先。を。饒。兵。を。脱。小。會。へ。と
 せ。ら。せ。し。と。信。長。軍。に。援。手。を。納。め。實。小。弟。の。英。雄。あり。と。大。徳。小。あ。ら。ま。づ。

織田殿
逢坂の
御陣ふた
荒木村重が
大膽を
試む



村重一人の力にて、折別一圓をさすべし。とよも懇をせしめらるまじ。と感佩し
 申す事時久く有て、大將信長義弘の力せし自賜。折陣も小任
 らまらる。西將別折信とて、其日、東山智恩院、小折陣を移させ玉ひ
 ぐ。諸將、白川、粟田、清水、波羅、鳥羽、等。野も山も元満
 こり。慈心、信長、再び折院の事を料理し、公方家更、小折
 許、公方。是より四月、大軍、洛中、小礼、入、二條、等、の町、家、を、焼
 起、折院、と、平、嵩、く、殿、圍、を、吊、射、小、攻、破、り、と、な、り、等、西、隣、國、將、佐、の、大、名、も
 来らむ力と落させ、倉卒、小恐怖、の、折、心、出、来、り、和、後、を、信、出、させ、は、れ、信、長
 大小、笑、を、玉、ひ、然、こ、そ、あ、る、べ、き、折、事、さ、ら、あ、折、得、心、は、ま、と、う、の、信、長、何、と、と
 懐、心、せ、し、使、を、難、面、を、好、く、奉、ら、ん、也。和、睦、の、事、大、悦、あり、と、て、ま、づ、諸、將、を
 收、邊、し、信、廣、と、り、折、代、と、り、公、方、家、を、候、を、和、睦、の、折、院、會、上、

信長、同、月、七、日、と、り、京、都、と、還、去、り、玉、ひ、江、別、守、山、小、折、着、あり、又、ら、佐、和、山
 へ、ら、せ、玉、ひ、丹、羽、長、秀、と、折、院、あ、り、て、密、小、宣、ひ、と、あ、り、公、方、家、遠、般、若、威、怖
 也。一、度、折、和、睦、有、と、り、也、も、當、座、の、難、と、避、ん、と、為、り、て、必、定、累、て、折、謀、及、わ、ら、ん
 然、を、ま、六、羽、の、破、も、あ、り、て、瀬、田、山、田、矢、橋、山、田、小、南、小、折、折、の、進、備、と、り、
 渡、船、と、妨、げ、玉、ひ、等、を、し、時、こ、の、朝、暮、より、湯、水、と、湯、と、入、浴、を、ま、六、海、合、使
 と、い、を、と、り、て、大、船、九、十、五、艘、調、へ、と、令、せ、據、を、十、日、小、折、卓、城、馬、と、還
 め、て、還、させ、玉、ひ、甲、別、の、武、田、信、玄、備、國、中、八、人、と、り、小、中、と、還、させ、玉、ひ、
 由、へ、り、し、が、既、小、甲、醫、治、信、玄、の、之、別、の、地、小、馳、向、ひ、風、東、寺、本、倉、
 是、の、後、候、色、小、出、張、と、も、く、合、戦、を、と、り、急、小、病、氣、再、發、し、て、終、小、棄、去、せ、り、
 是、は、遠、別、根、羽、の、陣、中、あり、遠、病、根、ハ、苗、毒、の、後、病、症、再、痛、せ、
 甲、府、小、折、陣、せ、ら、れ、し、が、種、々、考、合、用、者、と、り、て、諸、國、へ、出、し、是、を、四、邊、傳

と早く聞出。信長へ討と言はせしむ。東方正軍。信長物見隠り
 たり。備前・備後・備前・備後。信長と和談せらるるも。徳川
 味義昭公。日夜小是と怒らせ玉ひ。信長屢諫言をことごとく心小
 諸君を。我將軍に殺し玉。信長が常小威を侵さ。いづる政道と
 事の中を。先祖の靈(面目)と。頻り小憤怒を發し玉ひ。今
 勿く忍びに。切し。信長小一矢射り。戦死せん。小志し。と思は。小
 立。同業七月。再び。野心と企む。然も。諸將を。都て。織田の種威小
 恐怖し。公方家と相佐。まわら。人も。今。追。事。な。り。る。三好
 太。義。継。の。城。小。返。り。和。田。伊。賀。等。惟。政。の。城。小。
 降。り。新。兵。如。離。散。と。小。所。守。護。を。軍。の。彼。是。干。渉。小。し。ら。ざ。り。し。
 斯。て。當。所。要。害。を。格。の。山。後。國。久。せ。致。す。治。權。の。南。西。に。絶。不。あり。彼。等。

新動度。信長と。と。徳。病。軍。の。効。め。小。う。り。小。準備。あ。ら。せ。ら。る。物。小。長。信
 之。關。大。和。も。秀。秀。此。中。と。所。より。義。昭。公。の。小。出。没。と。流。と。諫。り。田
 君。示。圖。も。も。想。し。思。ふ。小。再。と。上。つ。つ。る。當
 月。信。長。と。新。和。談。は。な。し。あ。ら。姪。や。と。思。ふ。際。も。なく。益。の。企。め。ら。せ
 玉。ひ。誠。小。い。る。り。小。心。を。也。殊。小。當。所。と。出。所。あり。格。の。場。入。所。あり。
 勿。ゆる。事。小。惟。も。君。と。信。長。子。の。武。威。軍。樣。獲。取。の。理。と。考。ふ。に
 一滴。の。水。也。り。て。種。火。の。灌。ぐ。が。如。き。り。一。際。於。必。死。の。小。覺。起。る。る。り。て
 當。所。所。敵。と。受。潔。く。合。戦。す。由。尋。常。小。所。自。害。あ。ら。玉。ひ。言
 其。の。餘。先。とも。信。長。を。手。を。小。清。名。も。清。一。聲。を。徹。く。地。獄。を。ま。り。て。正
 しく。仁。徳。あ。ら。ば。一。更。小。星。も。同。く。和。を。能。く。戦。ひ。不。意。の。救
 ひ。も。あ。ら。ば。小。惡。も。多。く。い。得。る。君。是。す。の。所。行。小。政。事。を。私。

外小長尾會背於今と用ゆる族なり。然るを織田家を憐れむ。
 其深小長尾家の不仁よりけり。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。

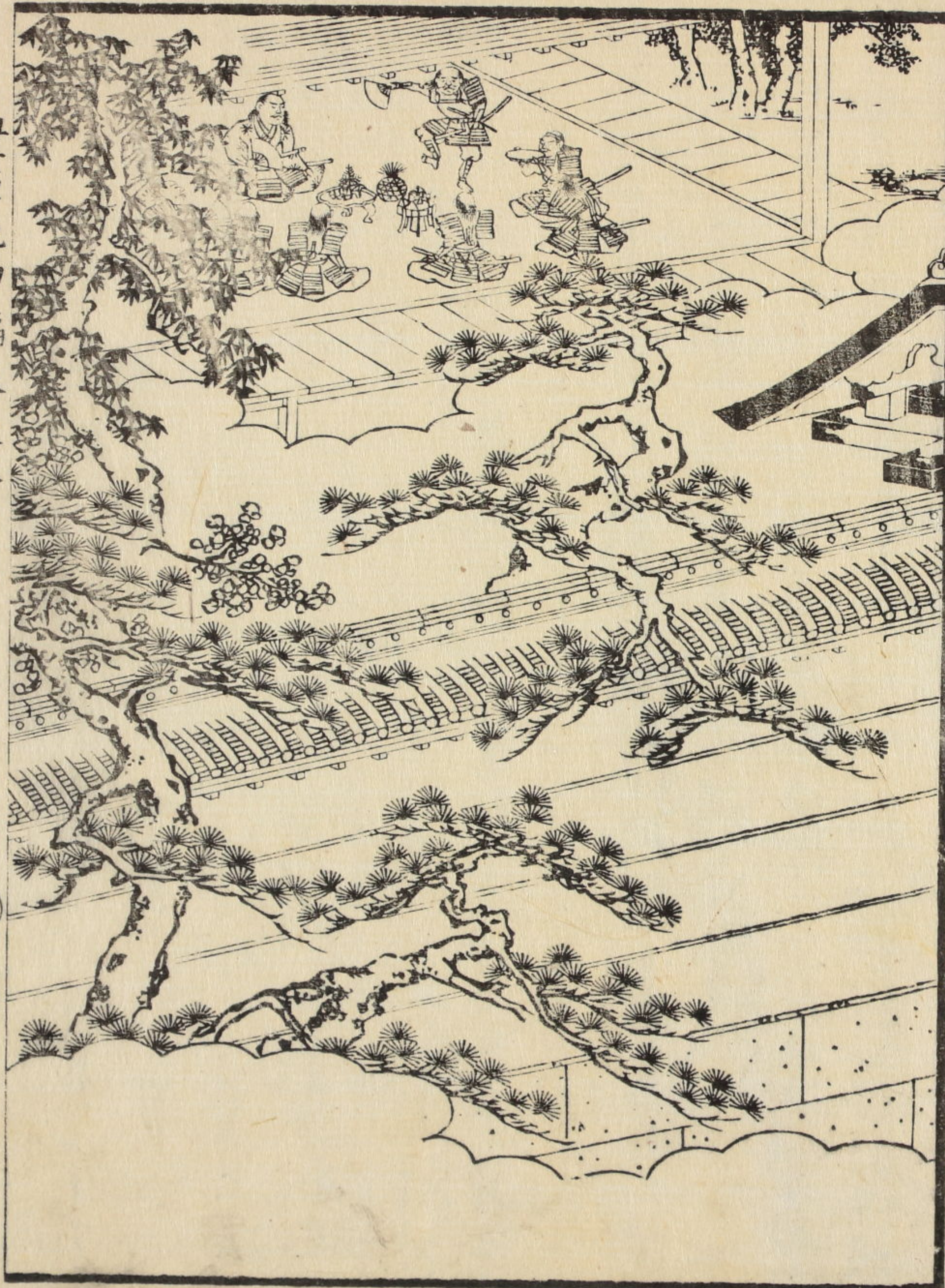
あらまじく。返りて。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。
 何れぞと。當りつ。君の御心は。信長は。

まづ佐和山小瀬着あり。時小虎瀬若山の城を。木下孫吉舟着言ハ持城の防
 衛を堅守小瀬。竹中守吉衛を守將とて。若士敷多城。若士守の信長の所
 供せんと。後々後百騎をうりて。佐和山に城。急来止。信長小謁。しならせ。
 公方家の所成の所料理のいふぞと。所守ぬ重。奉まふ。信長いよせ。関
 合。忠心と考らふ。公方家と再興。夫中。義昭公。將軍小任。下
 安途。いし。奉る事。是信長が。誠志。小。大敵と。謀せ。故。し。然。小我
 ぞり。依の如く。小思。百。再。之。所。野。心。あ。ら。せ。あ。ら。自。業。自。得。の。次。有。り。天。下。の。商
 小此君と。除き。あ。ら。せ。んと。欲。と。る。の。も。何。ぞ。憚。る。あ。ら。ん。や。公。方。の。死。生。の。時。小
 隙。と。料。理。し。と。宣。ひ。六。秀。吉。是。を。兼。り。若。小。も。重。し。と。通。り。遠。遣。の。業
 理。の。よ。悪。ハ。君。の。大。志。の。成。不。成。若。人。の。帰。と。と。帰。せ。と。の。一。大。事。有。り。坑
 口。は。よ。り。く。賢。意。と。回。ら。せ。と。名。の。正。く。し。し。ま。ま。計。ら。せ。ま。ま。と。こ。好。長

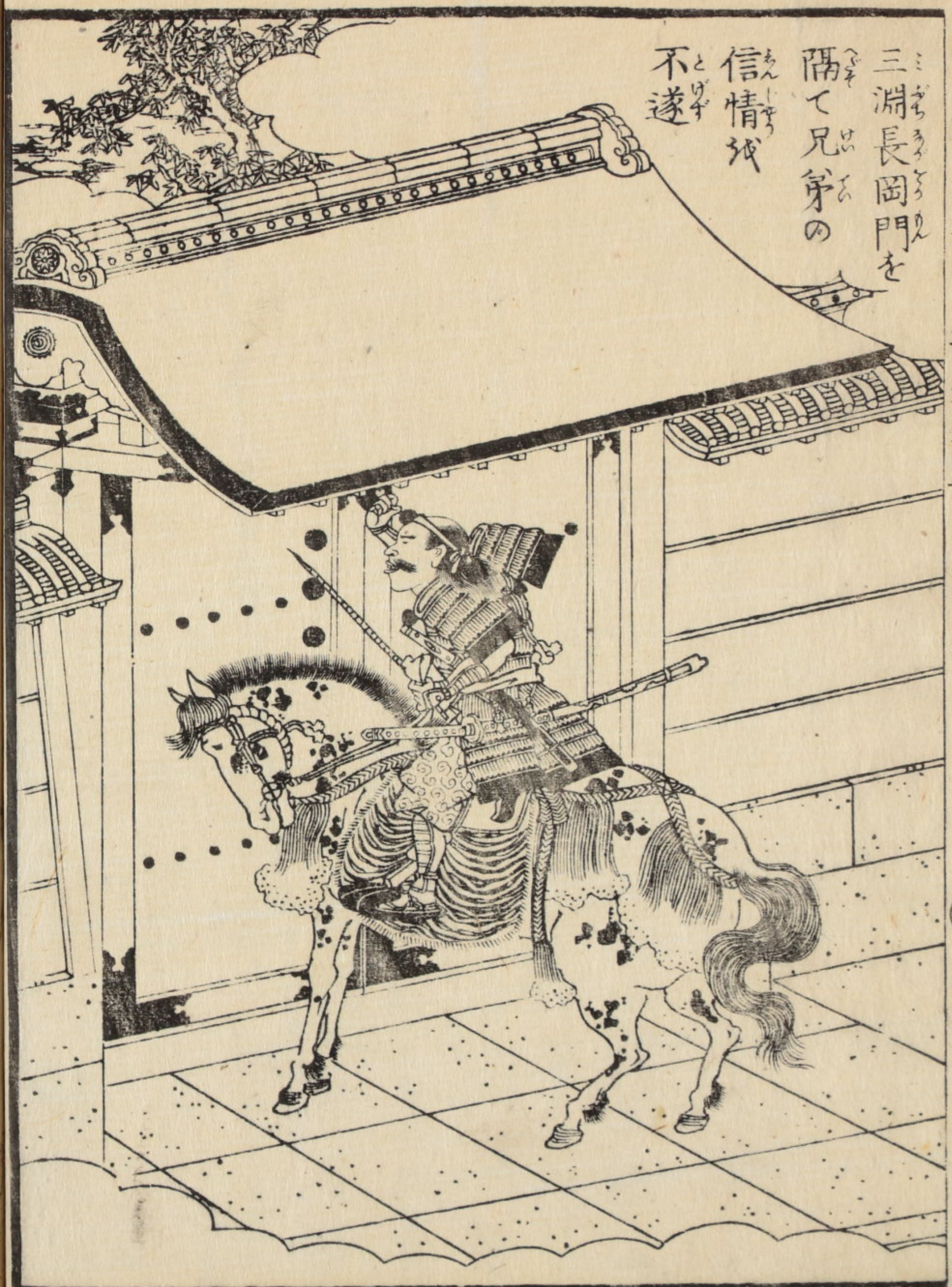
慶長と。とり。可。松。院。殿。十二代。光。源。院。殿。十二代。の。兩。將。軍。を。補。佐。と。し。こ。も
 度々。敵。を。あ。ら。せ。と。遠。小。遠。信。の名。流。り。若。小。と。遠。事。の。一。死。せ。り。南。心。信。長
 必要。の。も。と。若。切。と。い。言。出。せ。六。信。長。ハ。唯。う。み。づ。れ。玉。ひ。一。言。の。詞。も。な。く。若。妻
 時。歎。と。ら。ん。せ。が。汝。ハ。大。切。の。城。を。守。る。虎。若。山。小。残。と。と。宣。ひ。と。と。宣。ひ。と。と
 孫。吉。舟。彼。城。ハ。隨。合。防。衛。の。准。備。堅。固。小。り。と。い。ふ。當。て。過。失。あ。ら。う。と。最。も
 遠。遣。の。所。上。洛。ハ。天。下。に。自。廢。と。定。め。と。あ。ら。所。大。事。の。時。小。は。得。ハ。是。非。小。供
 頼。と。と。と。信。長。を。諫。言。し。と。多。人。目。佐。和。山。を。と。せ。ら。し。と。兼。て。若。秀。小
 命。し。置。ま。し。大。船。小。諸。將。と。ら。ん。と。せ。坂。本。の。岸。推。涉。り。直。小。系。都。家。報
 して。二。條。の。河。所。不。攻。進。と。若。小。之。測。又。和。若。藤。秀。ハ。公。方。家。より。所。留。守。の
 事。と。命。ぜ。ら。れ。決。り。も。天。運。此。小。極。と。是。利。の。代。行。相。と。想。決。せ。一。條。の。色。ハ
 雷。戦。死。と。覺。知。と。極。め。此。も。心。を。く。氣。也。と。日。野。大。納。を。懸。賞。紳。若。野

宰相永相辨。其外堂上の人。堂員纏ひ西倒るるを。登くよきいと落し
 其のれせ皇後僅五十余人。河下的大门せさし。唯め敵軍今やとす。河下微
 田勢云平陸の相引ごとく。濠々として。河下不推進せ。國の事とを揚り
 なる。この別為孫秀世光爾と笑ひ。あら心地よ。大軍なるを。遠中へ發振る。戦
 死せること。女望なきと。士卒を勵まし。馬宗中。大門親と推。兵を五十余人。是
 擡も。とす。世と。あら。いと。突出なり。福麻の如く。元満。とす。織田勢。中
 善地。小致。入。千。方。面。當。り。と。幸。以。滅。多。敵。小。次。伏。突。伏。龍。蛇。の。海。を。逃
 る。が。如。く。頗。る。激。戦。なり。乃。ゆ。織。田。勢。原。より。河。所。方。の。將。士。を。侮。り。ま。り
 小。今。之。別。が。戦。死。と。せ。し。憤。怒。の。切。され。小。突。起。ら。ま。り。後。沈。小。ら。を。信。長
 遠。小。河。覽。あり。新。勇。糧。の。擡。り。と。離。る。小。や。と。宣。ひ。と。荒。木。村。重。集。り
 馬。を。飛。せ。せ。先。隊。小。い。り。新。見。屋。て。を。歸。り。彼。勇。士。ハ。公。方。の。長。居。之。別。大

和守孫秀小以戦死と覺期せし。小や思込る。戦振ひて。ひあり。と。國。召。れ。て
 大將信長。松。石。士。と。殺。さ。し。ま。し。と。い。ふ。も。中。へ。助。命。さ。を。ん。幸。ひ。長。岡
 公。助。大。捕。り。大。和。吉。と。兄。弟。の。事。を。孫。孝。を。遣。し。と。急。ぎ。之。別。が。お。死。せ。止
 め。さ。せ。よ。と。命。せ。ら。る。多。く。孫。孝。膜。拜。し。馬。と。を。奪。て。先。隊。の。軍。場。へ。致。出。を。
 遠。時。之。別。大。和。守。ハ。敵。と。十。分。小。追。捲。り。首。ご。も。數。多。敵。捕。ら。る。が。自。軍。も
 大。半。殺。死。と。殘。る。漸。く。十。四。五。人。今。ハ。是。事。を。あ。り。ま。る。を。自。害。の。事。と。思。ふ
 一。所。へ。長。岡。藤。孝。鞭。急。しく。馬。を。飛。せ。せ。來。る。を。見。く。必。定。之。事。を。助。ら。る。り
 ん。が。死。と。極。め。ら。る。今。と。り。何。せ。情。を。小。恬。さ。と。の。を。か。く。河。下。邊。云。し。
 門。戶。を。嚴。しく。固。め。ら。る。遠。响。長。岡。孫。孝。ハ。漸。く。大。門。小。け。つ。けて。大。和。守。小。吉
 重。さん。開。門。あ。ま。り。と。呼。を。り。し。こ。も。更。小。益。ら。る。り。は。も。り。然。後。小。之。別。ハ。河。下
 の。中。小。吉。士。を。集。め。最。初。の。酒。宴。を。催。し。と。然。も。嬉。し。げ。不。談。舞。林。劍。之。夜



三淵長岡門を
隔て兄弟の
信情残
不遂



梶川を哨出させ先陣稲葉伊豫守が警力小馬らに功を立させしを命ぜらるる小
 宗重有が所請重一稲葉が陣小加らるる所小秀吉梶川にこのが
 陣中密小指さし色先陣小加らるる名小負ふ宗治川の先陣に
 他人小業を至玉ふが必心と勵至と宗重を所小負ふ宗治川の先陣に
 小信も只更の心を必と武勇の古人小劣るる心も負意さす
 明日先進つるらむが生て再び返るまじと勇ほしく答ける小秀吉
 累て重き其忠勇を見こを至ひ君より命らるる事あり足小むく
 先進るるらむく小料理て手登く河原の中小入る將軍家の漸生
 害を止む。是大切の事小首尾様仕果せむひひ。後小美々の
 功果あり足小むく計らるる。よつて先陣小加らるる心と切て行ひ
 至と委細小申會めらるる。梶川に集知らるる。その教あらぬ小信を人

さましくも思召さ大切の折用を命ぜらるる誠小勇士此面月あり却心安く
 思召べ。必を仕果せ宗重とと雀躍して夜の境を待てび。時小
 元飛四年六月八日朝まどなり織田の惣軍五万有宗結難かして
 治川の西岸小気満を河水漫くと漲りこまバ何所と淺淵をん分らず
 諸軍勢も共小あやぶ。法りうめては猶豫なむ。然ふど小梶川彌三宗
 重の兼て先進の心かけあり。殊小本下が内意を得こまバ三小非小先陣せむ
 んがあらむと思ひつめてまづるが然とて拔直に禁制あり。續く自軍もあは
 布一騎小して渡るとも。益なれ事と思案をゆ。今朝東雲のあはひより
 一騎進んで川岸小到り。織田の出陣を待てるが今大將の小静として諸勢を
 勵まし進まらる中も先隊の稲葉が一陣貝鼓小つきて推出せしむるを
 ともやと梶川唯一騎川中へ馬を乗入て白浪蹴之進まらる。今日宗治川

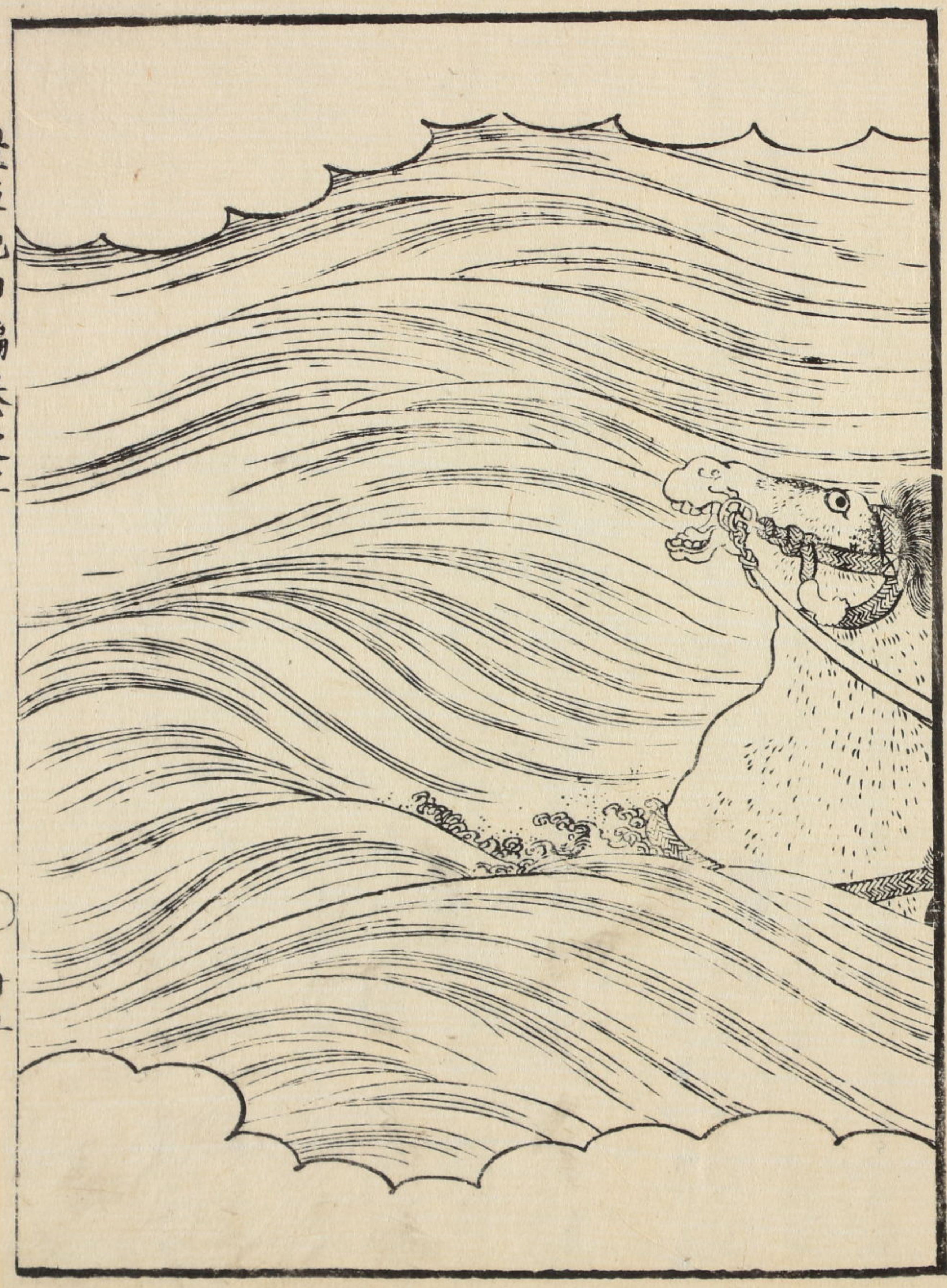
梶川

彌三郎宗重

模島征

宇治川を

鬼騎を



の先陣梶川弥三郎宗重ありと声ききり小峰をりく武者づひして井
 波を稲葉長通と見えて續けや公軍梶川小先と越さるゝと下
 禰とまじり嫡子右衛門亮同左六郎老當・西條内藏助候つひて馬と
 逃入る梶川が讀小引割り二陣の秋篠新五郎・氏家左衛門
 孫伊賀と不破河内と同左之飯沼助平九毛公庫政同之序
 之深市橋九郎左衛門伊らさ出らじと入る。平等院の門前へ一
 地小細とうちあがり。登くも雨く小火を惹きまると高芝
 色より歩波を軍の本下孫吉郎と初とて。佐久間右衛門尉柴田修理進
 池田孫之介丹羽五郎左衛門蜂屋公庫頼明智十景湯長岡公初大捕
 同興一舟流木橋津吉・永原清前と蒲生右衛門入同忠之介後友
 喜之介近藤山城吉・永田刑部山岡良浩吉同孫左衛門對吉と多賀

新左衛門山崎孫六郎とりく。と推法を此等小公方の河軍勢を
 過す橋の鴻小守城と。義昭公と吉備一衆を余の宇治川の岸小
 備位で進まは法とと殺んとせし織田の大軍小氣をまててそを
 うち小城へ退入一個も支ゆるはたきも小自軍一騎も換せざりて心易く
 推法り橋の考すを推逼り。城中も松井山城も康之嫡子孫五郎康
 秀僅五石余騎少く退く出勇と極めて捲く松小松葉城ともあり突
 筋さき先く見ゆるは織田一将小推来り松井父子と申小松相模
 とも討小橋よりさきも強氣の康之康秀進急と多く殺捕て潔くうち
 死を松井の外少勇とさき小や一個も戦ふ者なして。倉城中へ退入る織田
 勢増く隙際もあらせど追手搦手と宗破り五男の大軍一時小攻入る城と
 も歩破らんと勇と進むと木下孫吉郎君命ありて自軍を制し

豊臣記四編卷之三

七十一

丸うら登りしむら後炮も敵ごとと諸陣へ散らく御茶。城中の窓子と
 伺ひる。然れども小城中の公方家と細まつる。隨ひ侍る人も今や自軍
 の如くあらんと思ふ小違ひ。遠る御田の又軍二の丸まを。公投られ
 る。本軍の連れ時をぬ時よりぬと義昭公小生害を勧めまのら
 ざる者あまも。流石小余計惜まも。新屋縁ましくおまし。怒。
 小滝川跡之跡の先一番小川を流し。文了故も多し。向ひの岸へ
 上るととどく。遊ばし。城を四角八面小退散。一人を生
 捕て流せぬを。ととと。公方家の公小身とや。敗走
 ざる。小計りて。城中へ入る小計りて。はむら。先九へ終
 末。新室子と伺ひま。小も。織田堀の総構を。本丸を
 貴入る。城中又小恐怖。公方家悲嘆小せ。玉ひ十分先志の辨

丸うら登りしむら後炮も敵ごとと諸陣へ散らく御茶。城中の窓子と
 伺ひる。然れども小城中の公方家と細まつる。隨ひ侍る人も今や自軍
 の如くあらんと思ふ小違ひ。遠る御田の又軍二の丸まを。公投られ
 る。本軍の連れ時をぬ時よりぬと義昭公小生害を勧めまのら
 ざる者あまも。流石小余計惜まも。新屋縁ましくおまし。怒。
 小滝川跡之跡の先一番小川を流し。文了故も多し。向ひの岸へ
 上るととどく。遊ばし。城を四角八面小退散。一人を生
 捕て流せぬを。ととと。公方家の公小身とや。敗走
 ざる。小計りて。城中へ入る小計りて。はむら。先九へ終
 末。新室子と伺ひま。小も。織田堀の総構を。本丸を
 貴入る。城中又小恐怖。公方家悲嘆小せ。玉ひ十分先志の辨



豊臣巴口編六十三



豊臣巴口編卷之三

七

小もあき誓時がうち。新安座ありて。新心勞をまぬがま王ひ時のころ
 を新侍ありて。然るべく好奉る生いらく。死の易い。大將軍より。新身の上
 を。遣らづればどの有るを。かまて。新命を金ふり。至へ。新身の上の所
 公達。新臺下を。始あまわらせ。新諸とも。小失至んこと。新痛をしく
 覚ゆるありと。潤を流して。云はし。なま。公方家。大い。感悦はし。一。借
 汝へ。下。新小似合ぬ。能計ひを。重なり。別を。義を。信を。問。海より。しく
 執行。と思入。く。宣ひ。る。あ。ぞ。彌之。新。護を。兼奉り。新使へ。別。流。を
 賜ふ。小。長。新。案内。つ。ま。らん。と。梶川。播。小。能。登。り。進。出。小。向。く。と。言。小。將
 軍家。の。新。使者。あり。必。を。根。藉。一。至。ふ。な。と。呼。を。り。妾。て。使者。諸。も。誠。を
 聞。ひ。て。直。地。小。信。長。の。本。陣。小。軍。り。新。身。を。悔。を。義。昭。公。遠。地。を。新。遣。を
 あらんと。歌を。新。助。命。あり。や。否。と。り。て。新。使者。を。を。ら。ま。と。り。と。聞。し。る。

こそ信長の則使者とらよせむひこそ是近小我成とさ。練を重し
 買るといふも。新用ひあせらまを。再び。能。と。企。ふ。天下。の。為。小。い。か。と
 多。ま。六。軍。馬。を。数。々。と。向。く。と。い。ふ。も。幸。り。跡。思。小。つ。ま。つ。ま。き。志。し。世。間。に
 所。も。あ。ま。六。新。遣。を。以。儀。然。る。と。遠。名。帰。く。と。云。は。と。と。一。と。詞。辭。小。使
 者。と。返。さ。さ。諸。軍。小。命。じて。本。丸。の。圍。を。解。せ。玉。ひ。る。愛。小。わ。く。義
 昭。公。翌。日。様。の。將。を。新。遣。を。あ。り。て。善。賢。寺。内。の。國。さ。の。あ。り。小。新。入。あ。る。
 信。長。より。小。下。秀。吉。を。遣。さ。さ。目。一。く。料。理。を。ま。せ。ら。る。由。一。孫。吉。房。
 奉。兼。り。直。小。善。賢。寺。小。到。り。公。方。小。調。一。奉。り。若。比。の。と。好。義。健。と。新
 歸。者。の。ま。は。彼。地。送。り。奉。る。む。は。是。と。云。は。實。を。小。より。兼。我。昭。公。小。も。今
 更。面。目。なく。思。へ。ん。左。右。の。言。も。宣。を。能。小。計。ら。ひ。得。さ。を。よ。と。最。悲。一。は。小
 宣。ひ。く。六。孫。吉。房。も。新。勞。は。く。敷。行。の。後。止。め。あ。は。と。新。信。重。く。寺。中。を

出若江の城（あつ）入（ま）まゐらせ。嗚呼（あ）のぼしや。今日（けふ）のしるる日（ひ）のりたるぞや。是利（あ）
 將軍（あ）号（う）氏（し）公（こう）より。十有（あ）四（じゆ）付（ふ）連（れん）綿（めん）と武（ぶ）先（せん）を（を）難（が）く（く）も（も）よ（よ）難（が）く（く）亡（わ）
 失（し）く。浮（う）萍（ひやう）は身（み）と（と）あ（あ）る（る）玉（たま）ふ（ふ）こと（と）痛（いた）む（む）く（く）又（また）悲（かな）し（し）む（む）。

繪本豊后勳功記四編卷之三 終

